

様式1

令和6年度 小林市立永久津中学校 自己評価書

4段階評価

4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る

I 改善を要する

学校経営ビジョン	夢や目標をもち、主体的に学ぶ、粘り強い生徒の育成。				
----------	---------------------------	--	--	--	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
知 育	<p>重点目標： 主体的な学びによる学力の向上</p> <p>手段：</p> <ol style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点を意識した教育活動を行い、夢や目標をもたせる。 小中一貫性のある学習指導、ICTの活用、ひなたの学びをすすめ、授業改善を推進する。 「個に応じた指導」を充実させることで、「できる・分かる」実感をもたせる。 英検の適切な級への受検を推進し、3級合格3名以上を目指す。 また、漢検においては、3級合格8名以上を目指す。 	<p>1について ・外部人材活用35回以上</p> <p>2について ・全員1回の研究授業実施(タブレットを活用) ・小中合同の授業研究会の実施</p> <p>3について ・対外テストにおいて各教科地区平均より+5点以上</p> <p>4について ・3級以上合格英検3名以上、漢検8名以上</p>	1について (1)1年生は、こすもす科での農家体験の体験を通して、さまざまな問題への意識高揚に繋げる。 (2)2年生は、職場体験学習を通して、正しい勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の生き方について考えさせ、自己実現を図る取組を行う。 (3)3年生は、高校説明会を実施し、適切な進路選択や進路実現に向けて、キャリア教育の充実に努める。	2.8	3	○1年生の農家体験、2年生の職場体験、3年生の高校説明会・福祉体験をはじめ、全校でも、地域の協力のもと多くの農業体験等を実施した。体験を通して、地域の良さや働く意義等についても理解を深めることができた。外部人材を活用した取組は、延べ40回以上実施できた。 農業関連の体験は充実しているが、様々な職種や多様な進路選択を考えられることができる取組も必要である。
			2について (1)目的を意識しながら場面に応じてICTを活用し、「協働的な学び」や「生徒の表現活動」につなげることを通して、授業力の向上(タブレットの活用や話合い活動の推進)に努める。 (2)小中合同による授業研究会を通して、小中一貫性のある学習指導に努める。	3.4		○校内では、一人1回の研究授業を実施し、相互参観を行うことができた。 また、小学校と合同研究推進委員会と授業研究会を行った。今後、小中一貫した研究をさらに推進し、令和7年度の市の研究発表につなげていきたい。
			3について (1)生徒の理解度や「つまずき」の把握に努め、職員間で情報を共有し、実態に応じた課題設定と授業を行うとともに、「個に応じた指導」を充実させる。	3.3		○校内でのテスト、対外テストの結果を分析し、補充的な指導や個別指導を行った。 対外テストの結果も地区平均を大きく上回っており良好であった。 授業内容の理解度に生徒と保護者間で、評価の差がみられることから、家庭学習のあり方について保護者と連携を図る必要性がある。
			4について (1)英語科担当を中心に英検受験を推進する。 (2)国語科担当を中心に漢検受験を推進する。	3.0		○本年度の英語検定受験者数は、19名(延べ人数)で、3級以上取得者は2名であった。 漢字検定受験者は、32名(延べ人数)で、3級以上の取得者は7名であった。今後も検定受験を推進していく。

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
德育	重点目標： 豊かな人間性・主体的に生きる力の育成 手段： 1 校内、校外を問わず、自発的で元気なあいさつを目指す。 2 道徳教育や人権教育の充実に努め、豊かな人間性を育むことで、「いじめゼロ」「不登校ゼロ」を目指す。 3 一人一人に寄り添う支援や教育相談の充実に努め、自己決定させる場面を意図的に設けることで自尊感情を高める。 4 生徒の長所を伸ばす支援を行うことで、困難に前向きに取り組み、乗り越えようとする態度と自信を育てる。 5 スクールワイドPBS、発達支持的生徒指導を推進し、生徒一人一人に自己指導能力を身につけさせる。	1について ・自発的あいさつ100%	1について (1)あいさつや返事等の自主的・自動的な活動を徹底する。 (2)その場での常時指導に努める。	3.1	3	○生徒の評価は高い(3.5)が、全体的に声が小さいと感じる。また、保護者アンケートでは、昨年度と比較すると+0.5となっており、あいさつを含めた基本的生活習慣について、良い方向に改善されていると思われる。 ○毎月実施している「いじめに関するアンケート」では、いじめ等のトラブルは確認できなかった。 ○不登校については、定期的な訪問を行った。 ○全職員で道徳科の授業に取り組んだ。 ○保護者アンケートでは、昨年度と比較すると+0.5となっており、人権意識の高まりが感じられる。
	2について ・いじめの解消100% ・新たな不登校生徒0 ・道徳科の時間実施率100%	2について (1)生徒指導主事を中心に保護者や関係機関とも連携し、不登校の解消に努める。 (2)道徳の時間の100%実施に努める。	3.3			
	3、4、5について ・常時相談と教育相談期間の設定 ・生徒会活動や学校行事の生徒主体の活動 ・ボランティア活動の充実	3、4、5について (1)一人一人が大切にされる学校づくりを目指し、職員と生徒の人間関係醸成を図りながら、信頼づくりに努める。 (2)実行委員会等の指導・支援を通して、生徒一人一人が学校行事やボランティア活動への自発的・主体的行動を促す。 (3)生徒一人一人にあせらずじっくり対応し、自己決定させる場面を多く設定し、発達支持的生徒指導を意識しながら指導を行うように努める。	3.1	○生徒一人一人に、常時声かけを行うとともに、学期に1回全員を対象に教育相談を行っている。今後も信頼づくりに努める。 ○気になる生徒については、養護教諭との相談を通しての支援も行っている。 ○悩みを抱えている生徒には、自己決定の場面を設定し、じっくり時間かけて取り組んでいる。 ○学校行事やボランティア活動へ自発的・主体的に取り組んでいる。本年度は、「届けよう、服の力プロジェクト」、地域行事への企画からの参加など積極的な取組がみられた。		
	1について ・ネット上のトラブル0 ・平日、7時間以上の睡眠80%	1について (1)アンケートの実施を通して、実態把握に努める。 (2)情報モラル教室を年2回実施し、ネット上の危険性についての理解を促す。 (3)リーフレット等の配付を通して、家庭でのルール作り、睡眠時間7時間以上確保等の協力を求める。	2.9			
	2について ・目の健康についての指導	2について (1)講話や視力検査を通して、目の健康の大切についての指導を行う。	2.5	○毎月実施している「いじめに関するアンケート」では、ネット上のトラブルは確認できなかった。校内では、年2回生徒を対象としたネット上の危険性についての学習を実施するとともに、毎月の啓発活動(リーフレット配付)に取り組んだ。保護者アンケートでは、平均2.4となっており、スマホ等の取扱いに苦慮されていると思われる。 ○目の健康の重要性について、講話や視力検査を通して、意識付けを行っているが、更なる啓発・指導が必要である。		
体育	重点目標： 健康・安全教育、体力・競技力の向上 手段： 1 ネット、ゲーム、スマホ等の使用について生徒への指導と保護者への啓発を行うことで、7時間以上の睡眠時間の確保を図る。 2 目の健康について、視力検査と目の運動についての指導を行う。 3 体力向上プランを基に体育的行事や部活動の指導の充実を図り、体力向上、競技力の向上を目指す。 4 授業開始・終了時の立腰指導を含め、日常生活の正しい姿勢づくりを図る。	3について ・Tスコア48項目中35項目で県平均以上 ・部活動県大会出場	3について (1)体育の授業で体力向上を考えて取り組ませる。 (2)部活動においても、それぞれの運動の特性に応じたトレーニングメニューに取り組み、体力の向上及び競技力の向上を図る。	2.9	2	○Tスコア48項目中29項目で平均を上回った。目標を達成することはできなかったが、体育の授業の最初に体力の要素を高めるためのトレーニングを実施することで、体力作りに努めている。部活動でも体力や技能の向上を考えて活動できた。男子バレーは、県大会出場を果たした。
		4について ・立腰定着100%	4について (1)立腰指導については、各授業の始めと終わり、集会等を通して、常時指導を行う。	2.6		○立腰については、各授業の始めや終わり、集会等で行っているが、職員・保護者ともに評価が低い。スマホ等の使用による影響もあると思われる。

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等
				取組別	総合	
食育	<p>重点目標： 健康な身体づくりのための「食」に対する意識高揚と実践力の向上。</p> <p>手段：</p> <p>1 残食0を基本とした給食指導の充実及び朝食の重要性を啓発することで朝食抜き0を目指す。</p> <p>2 「弁当の日」の発達段階に応じた具体的な到達目標の設定と家庭への啓発により確実な実践（年5回）を目指す。</p>	<p>1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食残菜0 ・朝食をとる生徒100% 	<p>1について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)給食の残菜ゼロをめざす。 (2)朝食に関するアンケートの実施と考察を行い、実態を把握する。 (3)保健だより等を通して、食に関する情報の提供を行う。 	3.0	3	<p>○定期的に食育だより（通信）を発行し、食に関して啓発できた。さらに、栄養教諭と連携して、食に関する学習を実施することができた。</p> <p>○朝食に関しては、ほぼ毎日食べないと回答する生徒が1名いる。朝食の重要性について、栄養教諭の講話を元に、本人・保護者に継続して支援していく。</p>
		<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁当の日確実な実践5回実施 	<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)「弁当の日」実施について、家庭への協力を求めるとともに、事前の目標設定や計画を行い、確実に実施する。 	2.8		<p>○年間5回設定したが、その内4回を主体的、計画的に指導、実施できた。しかし、取組に関しては、昨年度と比較して生徒アンケートで-0.5で平均3.3。保護者アンケート平均2.9となっており、取組への負担感があるのではないかと考えられる。次年度は、年3回の実施とし、生徒・保護者に「弁当の日」の発達段階に応じた具体的な到達目標の設定と家庭への啓発を行う。</p>
その他	<p>重点目標： 保護者や永久津小学校、地域との連携の推進</p> <p>手段：</p> <p>1 管理職や主任の打合せを密に行い、合同職員会議の充実及び保護者や地域との連携強化を推進する。また、生徒の主体性や郷土愛を育むため地域の行事（永久津ドンと祭り）に企画段階から関わらせる。</p> <p>2 学校だよりや学級通信の定期的な発行とホームページの積極的な更新を行う。</p> <p>3 効率的な業務の推進を図る。</p>	<p>1について</p> <p>小学校及び関係機関との連携</p>	<p>1について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)円滑に合同行事を実施するため、小中合同の職員会の充実を図る。 (2)永久津いきいき協議会、永久津校区教育振興会等との連携を通して、生徒の地域行事への積極的参加を促す。 	3.0	3	<p>○小中合同の職員会や研修を実施することで、円滑に合同行事計画の全実施ができた。生徒アンケートによる評価(3.5)、保護者アンケート評価(3.7)で高い評価である。</p> <p>○健幸こばやし大運動会、永久津ドンと祭りなどに地域の一員として、多くの生徒・保護者が関わることができた。特に、永久津ドンと祭りでは、3年生が企画の段階から参加することで、地域の中で果たす役割についての意識が高まった。</p>
		<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより毎月発行 ・学級通信の定期発行 ・ホームページ更新70回 	<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)学校だよりや各担任からの学級通信を定期的に発行させ、積極的に外部への情報発信を行う。 (2)ホームページの更新を行う。 	3.4		<p>○学校だよりや学級通信等の定期的な発行、ホームページの更新を通して、積極的に外部への情報発信ができた。今後も積極的に学校情報公開を進めていく。生徒アンケート平均3.4。保護者アンケート平均3.7となっており、昨年度より評価が上がっている。</p> <p>次年度も、定期的な情報発信を継続していく。</p>
		<p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な業務の推進 	<p>(1)時間外勤務の縮小、会議の効率化、事務処理の効率化等を図る。</p>	3.4		<p>○会議の効率化等によって、時間外勤務の縮小ができる。今後も職員のワークライフバランスを意識した働き方改革を推進していく。</p>
次年度の方向性についての校長所見	<p>本年度の学校経営ビジョンに基づき、学校と家庭の連携の下、ある程度の成果を上げることができた。「知・徳・体・食」のうち「体」の領域については評価の結果を受け、指導の充実を図りたい。次年度は本中学校地区で、市の指定を受けた研究公開が予定されている。学力向上を目指した授業改善の工夫が柱となるが、教育課程の工夫及び改善や本地区ならではの地域とともに子どもを育てている取組についても広く知らせていただきたい。</p> <p>また、生徒の個に応じた支援を充実させるとともに地域を愛する生徒の育成に取り組んでいきたい。</p>					